

2024年度第1四半期決算説明資料

Financial Results for First Quarter FY2024
(for the year ending March 31, 2025)

2024年8月6日

川崎重工業株式会社



 **Kawasaki**
Powering your potential

0 目 次

1

2024年度第1四半期決算実績

サマリー	3
セグメント別	4
損益計算書	5
事業損益増減要因	7
財政状態計算書	9
キャッシュ・フロー計算書	11

2

2024年度業績予想

サマリー	13
セグメント別	14

3

セグメント別詳細情報

航空宇宙システム	15
車両	19
エネルギーソリューション&マリン (略称: ES&M)	23
精密機械・ロボット	27
パワースポーツ&エンジン (略称: PS&E)	31

4

株主還元、その他

株主還元	35
プロジェクトピックアップ	36
参考資料	40

ご注意

本資料のうち、業務見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。なお、当社は2022年度第1四半期よりIFRS（国際財務報告基準）を適用しています。

1 2024年度1Q決算実績 – サマリー

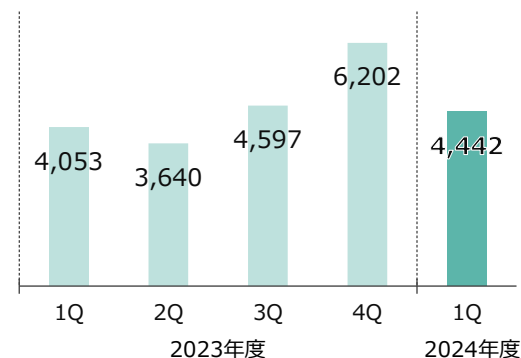
- ✓ 前年同期比で増収・増益、1Qにおける売上収益としては過去最高を記録
- ✓ 税前利益・純利益は円安進行に伴う為替差益が大きく寄与

(単位：億円)

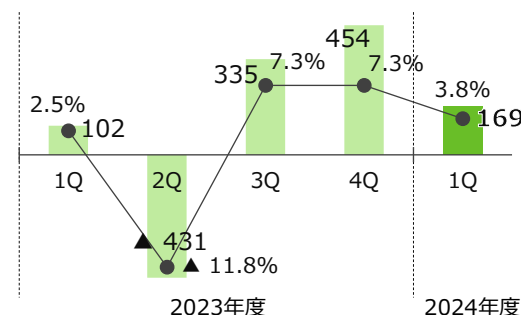
	'23年度1Q	'24年度1Q	前年同期比
受注高	4,573	4,568	▲ 4
売上収益	4,053	4,442	+ 388
事業利益	102	169	+ 66
	[利益率] [2.5%]	[3.8%]	[+ 1.2pt]
税引前四半期利益	149	258	+ 109
	[利益率] [3.7%]	[5.8%]	[+ 2.1pt]
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	90	153	+ 62
	[利益率] [2.2%]	[3.5%]	[+ 1.2pt]
売上加重平均レート(USD/JPY)	132.09	153.34	+ 21.25
損益影響外貨量(億USD)※	4.5	4.9	+ 0.4

※ 為替変動に伴い事業利益に影響を与える外貨量であり、川崎重工業、川崎車両、カワサキモータースのドル建売上からドル建仕入を控除して算出（損失引当済み案件の外貨建売上を含む。但し、PW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る外貨建返金負債残高を除く）。当該数値のセグメント別内訳はP.44を参照。

／ 四半期別 売上収益 (億円)



／ 四半期別 事業利益 (億円), 利益率



- ✓ 航空宇宙システムおよび精密機械・ロボットは採算性が大きく改善し増益 ①
- ✓ PS&Eは固定費の増加やオフロード四輪車のリコール対応等により減益 ②

(単位：億円)

	受注高			売上収益			事業損益		
	'23年度1Q	'24年度1Q	増減	'23年度1Q	'24年度1Q	増減	'23年度1Q	'24年度1Q	増減
航空宇宙システム	1,187	882	▲ 305	802	1,049	+ 247	▲ 46	48	+ 95
車両	164	170	+ 6	435	438	+ 3	▲ 0	▲ 14	▲ 14
エネルギーソリューション&マリナ	1,023	1,218	+ 195	707	801	+ 94	58	59	+ 1
精密機械・ロボット	540	616	+ 76	493	526	+ 33	▲ 25	▲ 1	+ 24
パワースポーツ&エンジン ^{※1}	1,439	1,447	+ 7	1,439	1,447	+ 7	143	115	▲ 27
その他	217	233	+ 15	175	178	+ 3	6	7	+ 0
調整額 ^{※2}	-	-	-	-	-	-	▲ 33	▲ 45	▲ 11
合計	4,573	4,568	▲ 4	4,053	4,442	+ 388	102	169	+ 66

※1 2022年度第3四半期連結会計期間より従来「モーターサイクル&エンジン」としていた報告セグメントの名称を「パワースポーツ&エンジン」に変更しています

※2 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます

(単位：億円)

	'23年度1Q	百分率	'24年度1Q	百分率	増減
売上収益	4,053	100.0	4,442	100.0	+ 388
売上原価	3,392	83.7	3,588	80.8	+ 195
売上総利益	660	16.3	854	19.2	+ 193
販売費および一般管理費	623	15.4	738	16.6	+ 114
うち 給料および手当	177		196		+ 19
研究開発費	113		134		+ 20
その他	332		407		+ 74
持分法による投資利益	60		58		▲ 2
その他の収益および費用(▲は損)	4		▲ 4		▲ 8
うち 固定資産売却益	7		7		+ 0
その他	▲ 2		▲ 11		▲ 8
事業利益	102	2.5	169	3.8	+ 66

要因説明

- ① 円安の進行等により売上総利益率が改善
- ② インフレの進行に伴う各種費用の増加および円安の進行に伴う海外子会社の固定費の増加等

(単位：億円)

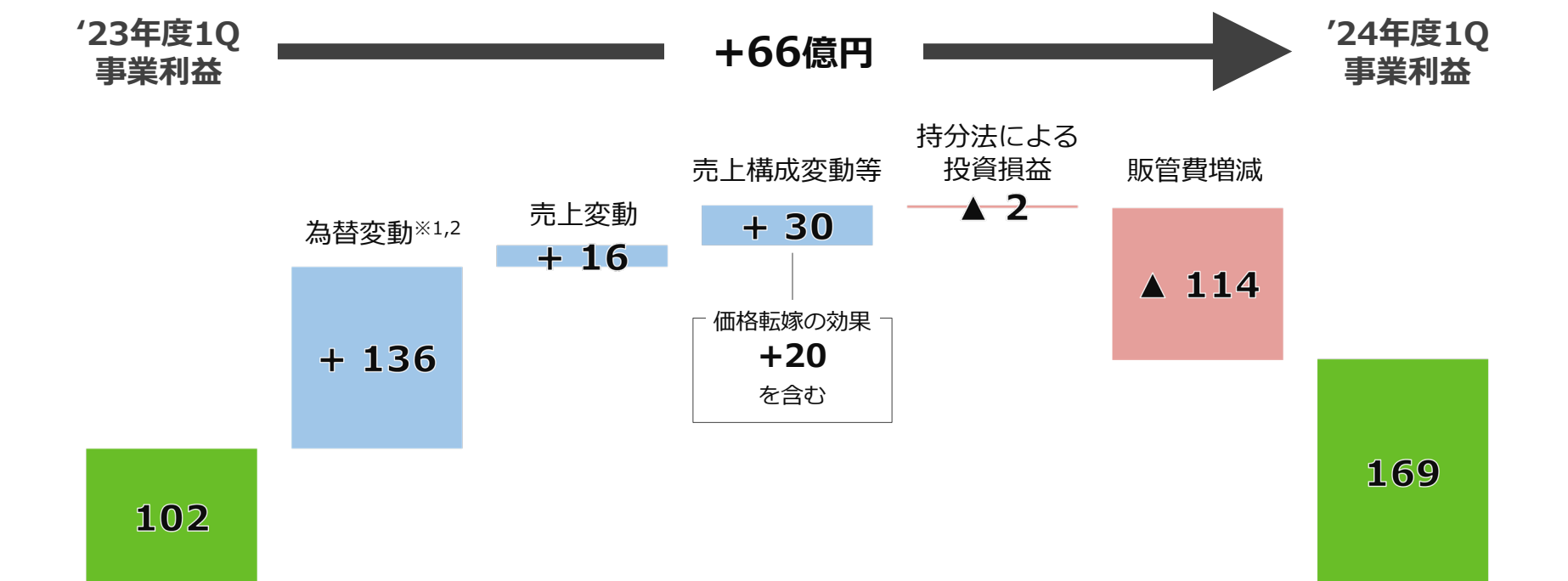
	'23年度1Q	百分率	'24年度1Q	百分率	増減
金融収益および費用(▲は損)	47		89		+ 42
うち 金融収支(受取配当金含む)	▲ 11		▲ 19		▲ 7
為替差損益	70		129		+ 58
その他	▲ 11		▲ 20		▲ 8
税引前四半期利益	149	3.7	258	5.8	+ 109
法人所得税費用	55		99		+ 44
非支配持分に帰属する四半期利益	3		5		+ 2
親会社の所有者に帰属する四半期利益	90	2.2	153	3.5	+ 62

要因説明

- ③ USD/JPYのレート差
 '23年度期末日レート
 151.40円
 '24年度1Q末日レート
 161.14円
 '24年度1Q
 売上加重平均レート
 153.34円
 外貨建債権の換算評価益
 が発生

2024年度1Q決算実績 – 事業損益増減要因

- ✓ 全体としては円安メリットを享受も、販管費（固定費）の増加が利益を下押し
- ✓ 売上構成変動等では航空エンジン事業での採算性改善が大きく寄与



※1 USDやEURを含む複数種類の通貨の変動に伴う損益増減であり、粗利益への影響額を示しています（販管費への為替影響は含まれず、また、為替の変動に伴う物価変動影響額は「売上構成変動等」および「販管費増減」に含まれています）

※2 PW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る外貨建返金負債残高の為替変動に伴う評価替え影響を含む

2024年度1Q決算実績 – 事業損益増減要因

(単位：億円)

	'23年度1Q 事業損益	増減要因					増減 計	'24年度1Q 事業損益
		為替変動※ ¹ (粗利影響)	売上変動※ ¹	売上構成 変動等※ ¹	持分法による 投資損益	販管費 (▲は増加)		
航空宇宙システム	▲ 46	※ ² ▲ 5	35	79		▲ 14	95	48
車両	▲ 0	26	▲ 2	▲ 34	0	▲ 4	▲ 14	▲ 14
エネルギーソリューション&マリナ	58	7	13	4	▲ 5	▲ 18	1	59
精密機械・ロボット	▲ 25	14	4	3	2	1	24	▲ 1
パワーステアツ&エンジン	143	93	▲ 34	▲ 18	0	▲ 68	▲ 27	115
その他	6	1	0	3	0	▲ 4	0	7
調整額	▲ 33			▲ 5	▲ 0	▲ 6	▲ 11	▲ 45
合計	102	136	16	30	▲ 2	▲ 114	66	169

※1 増減要因のうち、為替変動、売上変動および売上構成変動等は、当社が一定の基準を定めて算出した概算値です。

また、それぞれの増減要因は不可分であることも多く、特に売上変動と売上構成変動等は合算した金額を確認することが望ましい場合があります

※2 PW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る外貨建返金負債残高の為替変動に伴う評価替え影響を含む

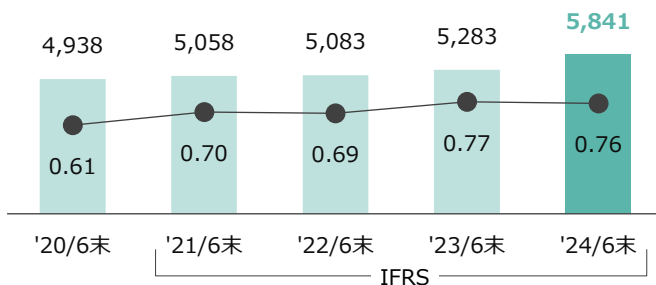
(単位：億円)

	'23年度末	百分率	'24年度 1Q末	百分率	増減
現金および現金同等物	841		1,028		+ 187
売掛債権（契約資産を含む）	7,703		7,245		① ▲ 457
棚卸資産	7,102		7,753		② + 651
その他	1,621		2,252		+ 630
流動資産 計	17,269	64.4	18,280	64.9	+ 1,010
有形・無形固定資産	5,659		5,841		+ 181
使用権資産	648		670		+ 22
繰延税金資産	1,174		1,175		+ 1
その他	2,050		2,185		+ 135
非流動資産 計	9,532	35.6	9,873	35.1	+ 341
資産合計	26,801	100.0	28,153	100.0	+ 1,352

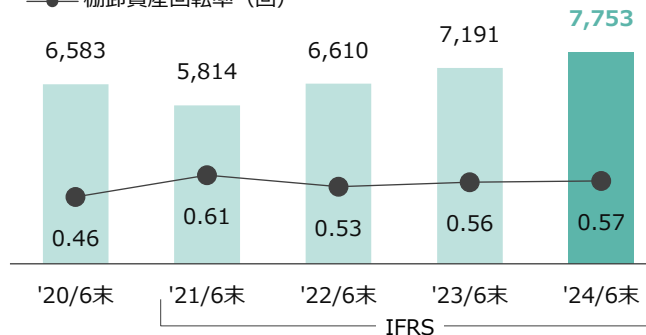
要因説明

- ① PS&Eやエネルギー事業、プラント事業等で減少
- ② PS&Eや航空宇宙システム等で増加

■ 有形・無形固定資産（億円）
● 固定資産回転率（回）



■ 棚卸資産（億円）
● 棚卸資産回転率（回）



(単位：億円)

	'23年度末	百分率	'24年度 1Q末	百分率	増減
買掛債務	4,519		4,365		▲ 153
有利子負債	6,539		7,326		③ + 787
契約負債（前受金）	2,654		3,199		④ + 544
受注工事損失引当金	56		56		▲ 0
退職給付に係る負債	746		757		+ 11
その他	5,739		5,670		▲ 69
負債 計	20,256	75.6	21,375	75.9	+ 1,119
親会社の所有者に帰属する持分	6,340		6,568		+ 227
非支配持分	204		209		+ 5
資本 計	6,545	24.4	6,778	24.1	+ 232
負債および資本合計	26,801	100.0	28,153	100.0	+ 1,352

要因説明

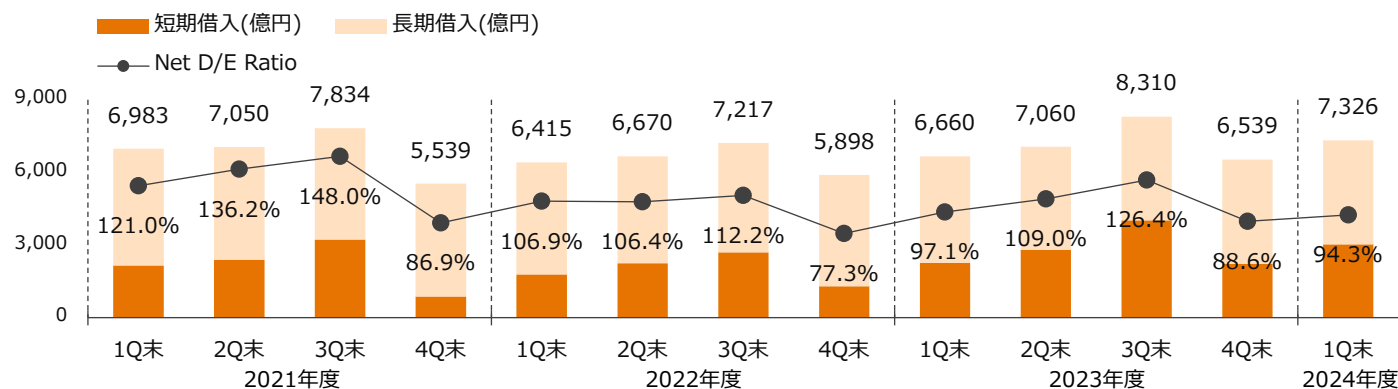
③ 前年度末比での借入増は
平常の事業サイクル

④ 航空宇宙事業等で増加

補足情報

Cash Conversion Cycle
の推移（単位：日）

	CCC
'20年度1Q末	151
'21年度1Q末	141
'22年度1Q末	146
'23年度1Q末	146
'24年度1Q末	159



(単位：億円)

	'23年度1Q	'24年度1Q	増減
税引前四半期利益	149	258	+ 109
減価償却費	213	208	▲ 5
運転資本構成項目の増減額	269	72	▲ 197
うち 売上債権 ^{※1} の増減額(▲は増加)	527	576	+ 49
棚卸資産の増減額(▲は増加)	▲ 194	▲ 499	▲ 304
仕入債務の増減額(▲は減少)	▲ 189	▲ 183	+ 6
前渡金の増減額(▲は増加)	▲ 31	▲ 332	▲ 301
契約負債 ^{※2} の増減額(▲は減少)	157	510	+ 352
その他	▲ 857	▲ 303	+ 554
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 224	236	1 + 460
有形・無形固定資産の取得による支出	▲ 232	▲ 255	▲ 23
有形・無形固定資産の売却による収入	10	13	+ 2
その他	1	▲ 19	▲ 21
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 219	▲ 261	▲ 41
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 444	▲ 24	+ 419
借入金および社債の純増減額(▲は減少)	692	696	+ 3
配当金の支払額(非支配株主への支払を除く)	▲ 93	▲ 47	+ 45
債権流動化による収入および返済による支出	2 ▲ 490	▲ 276	+ 213
その他	▲ 89	▲ 100	▲ 10
財務活動によるキャッシュ・フロー	19	271	+ 251

※1,2 売上債権には契約資産を含む。契約負債の旧科目名は前受金

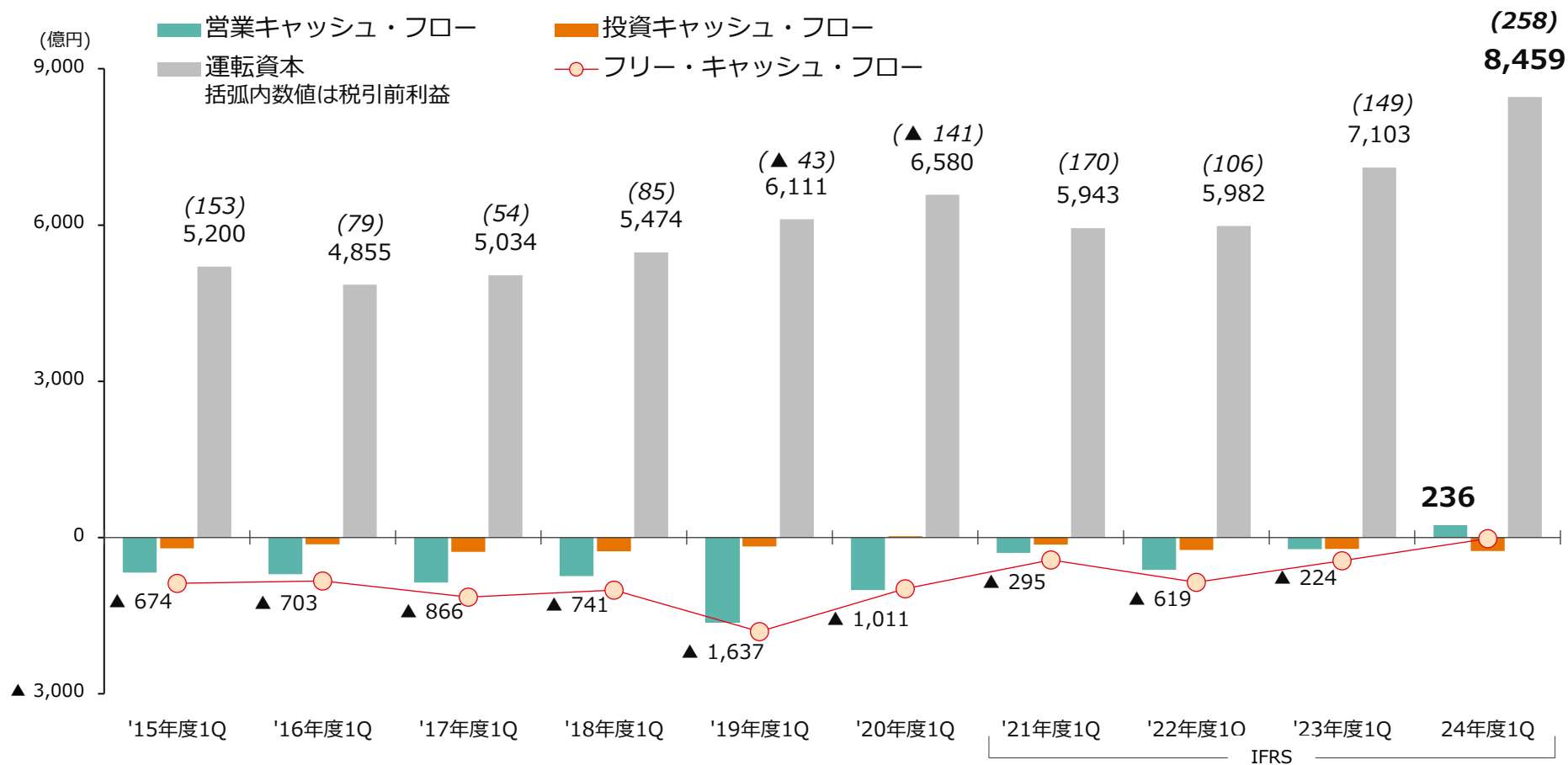
要因説明

① '23年度1Q：
PS&Eで債権回収が進捗したものの、航空宇宙システムやエネルギー事業での棚卸資産の増加等に加え、未収入金の増加等により、営業CFは赤字

'24年度1Q：
航空宇宙システムやPS&Eで棚卸資産の増加はあったものの、航空宇宙事業での契約負債（前受金）の増加等があり、営業CFは税前利益並みの水準

② 航空宇宙事業や船舶海洋事業等での支出

- ✓ 1Qでは恒常的に赤字だった営業CFが黒字に転換（航空宇宙事業での前受金が寄与）
- ✓ 足元の運転資本の増加は受注系事業の急激な回復やPS&Eの拡販に伴うもの



2 2024年度業績予想 - サマリー

- ✓ 売上収益・利益予想は5月公表値から据え置き
- ✓ 受注高は防衛省向けの増加により、見通しを引き上げ

(単位：億円)

	'23年度 実績	'24年度予想および進捗状況					
		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	1Q実績	2-4Q予想
受注高	20,834	23,600	24,100	+ 3,266	+ 500	4,568	19,532
売上収益	18,492	22,500	22,500	+ 4,008	-	4,442	18,058
事業利益	462	1,300	1,300	+ 838	-	169	1,131
	[利益率] [2.5%]	[5.8%]	[5.8%]	[+ 3.2pt]	[-]	[3.8%]	[6.3%]
税引前当期利益	319	1,100	1,100	+ 781	-	258	842
	[利益率] [1.7%]	[4.9%]	[4.9%]	[+ 3.1pt]	[-]	[5.8%]	[4.7%]
親会社の所有者に帰属する 当期利益	253	780	780	+ 527	-	153	627
	[利益率] [1.4%]	[3.5%]	[3.5%]	[+ 2.0pt]	[-]	[3.5%]	[3.5%]
税後ROIC	2.8%	6.7%	6.7%	+ 3.9pt	-	-	-
売上加重平均レート(USD/JPY)	142.54	140.00	-	-	-	153.34	140.00
損益影響外貨量(億USD) [※]	18.5	19.8	20.0	+ 1.5	+ 0.2	4.9	15.1

※ 為替変動に伴い事業利益に影響を与える外貨量であり、川崎重工業、川崎車両、カワサキモータースのドル建売上からドル建仕入を控除して算出（損失引当済み案件の外貨建売上を含む）。当該数値のセグメント別内訳はP.44を参照

2 2024年度業績予想 – セグメント別

✓ 1Qを終え、事業によって進捗に差はあるものの、
通期の利益計画達成に向けて2Q以降取り組みを加速していく

(単位：億円)

	受注高				売上収益				事業損益			
	'23年度 実績	'24年度予想			'23年度 実績	'24年度予想			'23年度 実績	'24年度予想		
		従来予想	修正予想	修正額		従来予想	修正予想	修正額		従来予想	修正予想	修正額
航空宇宙システム	6,926	7,500	7,900	+ 400	3,961	5,800	5,800	-	▲ 150	450	450	-
車両	887	1,600	1,600	-	1,959	2,100	2,100	-	37	70	70	-
I初キ-ソリューション&マリン	4,016	3,900	4,000	+ 100	3,532	4,100	4,100	-	319	300	300	-
精密機械・舶々ト	2,133	2,400	2,400	-	2,279	2,300	2,300	-	▲ 19	70	70	-
パワ-スツ-ツ&エンジン	5,924	7,200	7,200	-	5,924	7,200	7,200	-	480	680	680	-
その他	945	1,000	1,000	-	835	1,000	1,000	-	11	50	50	-
調整額※	-	-	-	-	-	-	-	-	▲ 217	▲ 320	▲ 320	-
合計	20,834	23,600	24,100	+ 500	18,492	22,500	22,500	-	462	1,300	1,300	-

※「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます

3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム

2024年度1Q実績（前年同期比）

受注高 
▲305 億円

民間機向け航空エンジンなどが増加したものの、防衛省向け大型案件の受注があった前年同期と比べ減少

売上収益 
+247 億円

防衛省向けや民間機向け航空エンジンなどが増加したことにより増収

事業利益 
+95 億円

増収による増益などにより改善

2024年度予想（従来予想比）

受注高 
+400 億円

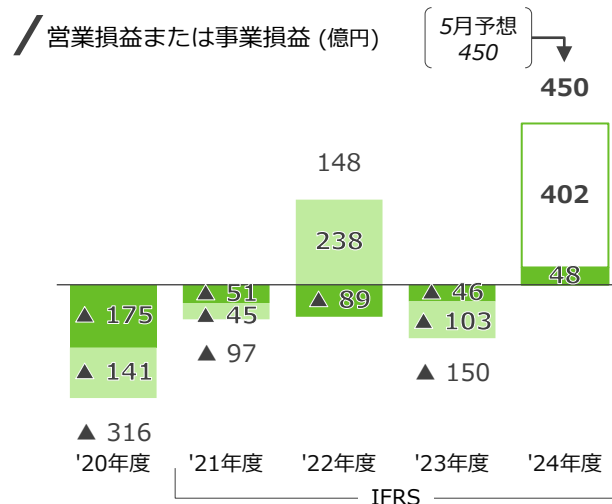
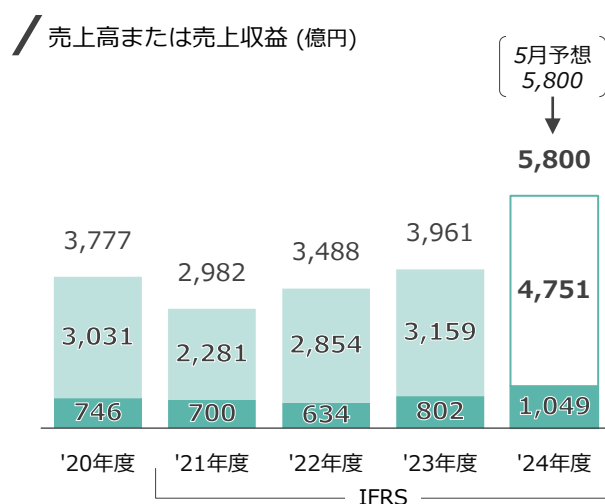
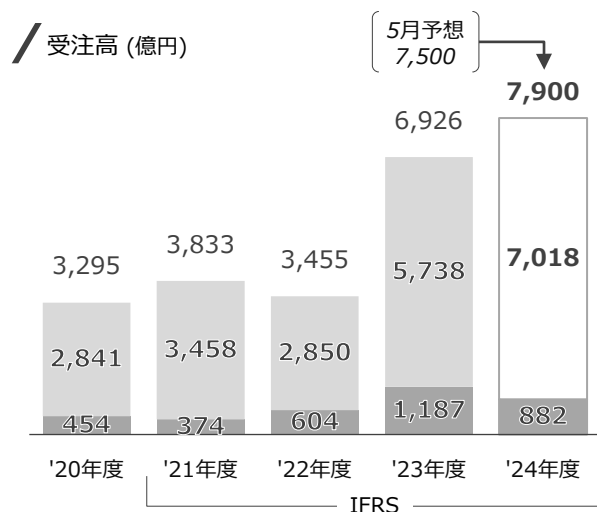
ボーイング向けの減少はあるものの、防衛省向けの増加などにより、見通しを引き上げ

売上収益 
±0 億円

大きな変動はなく、見通しを据え置き

事業利益 
±0 億円

同上



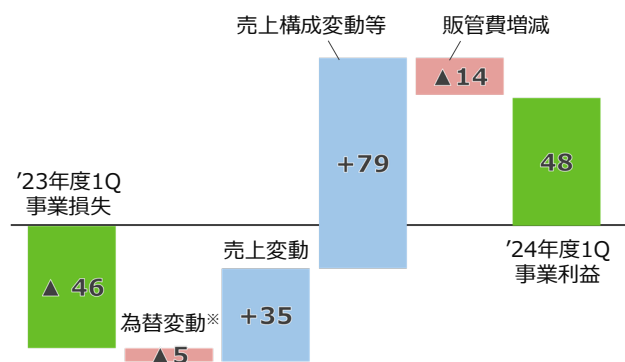
(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します

3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム

(単位：億円)

	'23年度 1Q実績	'24年度		'23年度 通期	'24年度予想				
		1Q実績	前年同期比		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	1,187	882	▲ 305	6,926	7,500	7,900	+ 974	+ 400	7,018
うち 航空宇宙	1,044	543	▲ 501	5,569	6,000	6,300	+ 731	+ 300	5,757
航空エンジン	142	339	+ 196	1,356	1,500	1,600	+ 244	+ 100	1,261
売上収益	802	1,049	+ 247	3,961	5,800	5,800	+ 1,839	-	4,751
うち 航空宇宙	568	713	+ 144	3,074	4,200	4,200	+ 1,126	-	3,487
航空エンジン	233	336	+ 102	887	1,600	1,600	+ 713	-	1,264
事業損益	▲ 46	48	+ 95	▲ 150	450	450	+ 600	-	402
	[利益率] [▲ 5.8%]	[4.6%]	[+ 10.4pt]	[▲ 3.8%]	[7.8%]	[7.8%]	[+ 11.5pt]	[-]	[8.5%]

事業損益増減要因 (億円)



※ PW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る外貨建返金負債残高の為替変動に伴う評価替え影響を含む

補足情報

ボーイング向け航空機分担製造品の売上機数
(単位：機)

	'23年度		'24年度		1Q比 増減
	1Q	通期	1Q		
767	8	33	5	▲ 3	
777	7	32	5	▲ 2	
777X	0	6	2	+ 2	
787	2	41	10	+ 8	

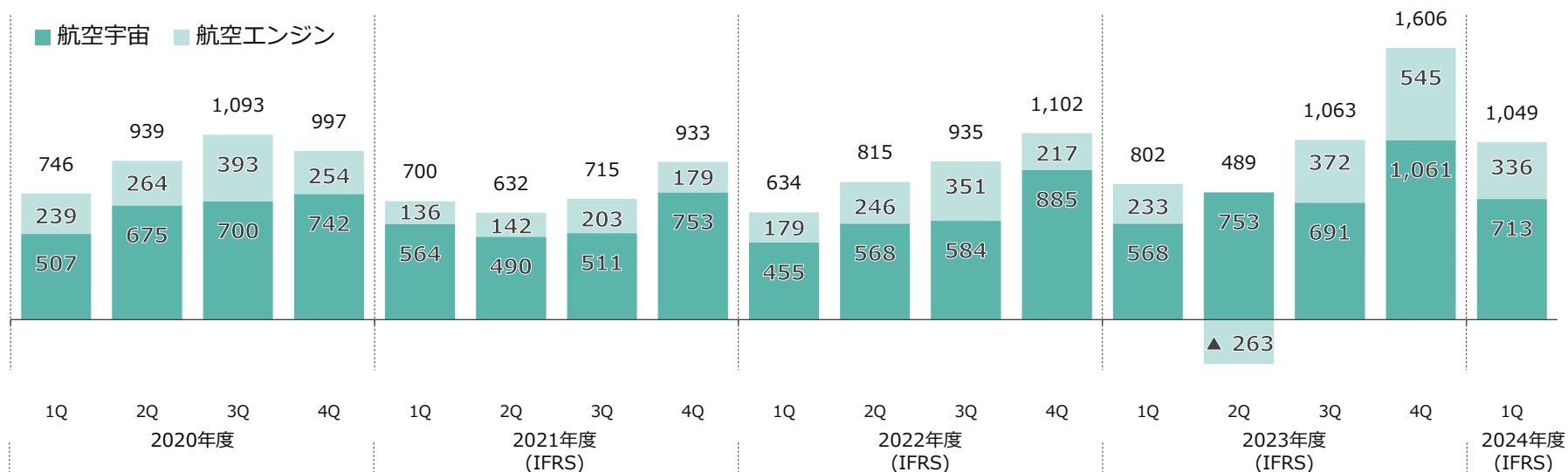
主要航空エンジン分担製造品の売上台数
(単位：台)

	'23年度		'24年度		1Q比 増減
	1Q	通期	1Q		
V2500	1	6	5	+ 4	
PW1100G	129	675	165	+ 36	

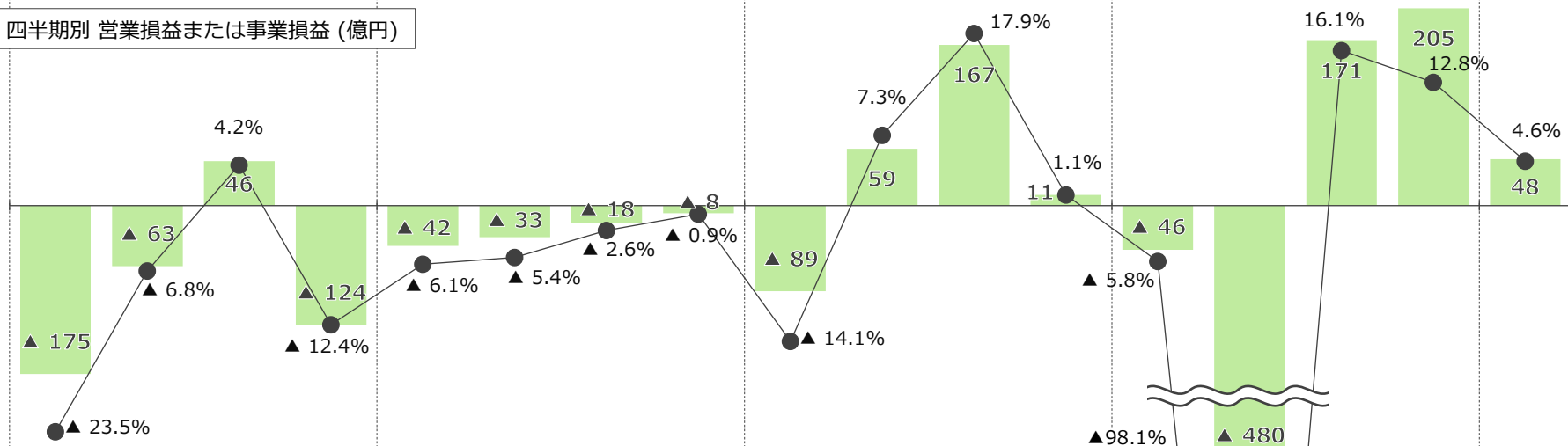
(注) Rolls-Royce向けエンジンは非公表

3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム

四半期別 売上高または売上収益 (億円)



四半期別 営業損益または事業損益 (億円)



事業環境・受注動向

- 民間向け
 - 航空旅客需要は回復から成長のフェーズに移行し、機体・エンジンともに需要が増加
- 防衛省向け
 - 抜本的な防衛力強化という防衛省の方針のもと、需要増や採算性の改善が期待できる

(補足)

当社がIAE社※1を通じて参画している
PW1100G-JMエンジンプログラムについて

- ✦ 同エンジンには運航上の重要な問題が発生しており、本問題を解消するため、今後数年間にわたって多数の同エンジンが検査・整備のため機体 (A320neo) から取り下ろされる見込み
- ✦ エンジンの取り下ろしから取り付けには250~300日を必要とするため、多くの機体が地上駐機状態となる
- ✦ '23年度に本件に係る将来にわたる損失見込み額を一括計上※2しており、現時点で損失見込み額に変更なし (ただし為替変動に伴う評価替の影響を除く)
- ✦ 本件に関する当社のプレスリリース
https://www.khi.co.jp/pressrelease/news_230912-2.pdf
https://www.khi.co.jp/ir/pdf/etc_231026-1j.pdf

※1 International Aero Engines, LLC

※2 2023年度7-9月期に事業損益段階で▲580億円の損失を計上

重点施策と具体的な取り組み



事業の拡大に向けた体制整備

- 旺盛な需要に対応するサプライチェーン及び増産体制の再整備
- 新たな事業機会獲得に向け業務効率化を推し進め、生産性を向上させる
- 防衛航空機・ヘリコプタの開発案件・量産契約の着実な推進



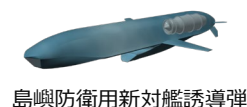
警察庁よりH145//BK117
D-3型を受注
(D-3型 累計29機目)



防衛事業にかかる活動強化

- 防衛力強化に向けた7つの重視分野への取り組み推進

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 統合防空ミサイル防衛能力 | 5 機動展開能力 |
| 2 スタンド・オフ防衛能力 | 6 持続性・強靱性 |
| 3 領域横断作戦能力 | 7 無人アセット防衛能力 |
| 4 指揮統制・情報関連機能 | |



島嶼防衛用新対艦誘導弾



スタンド・オフ電子戦機※
※出典：防衛省ホームページ
<https://www.mod.go.jp/j/publication/wp/wp2020/html/n42203000.html>



市場動向を踏まえた技術戦略の推進

- 防衛力強化の実現に向けた民生技術の活用を含む技術開発の促進
- NEDOグリーンイノベーション基金活用による脱炭素社会に向けた環境技術開発の推進

3 セグメント別詳細情報 - 車両

2024年度1Q実績（前年同期比）

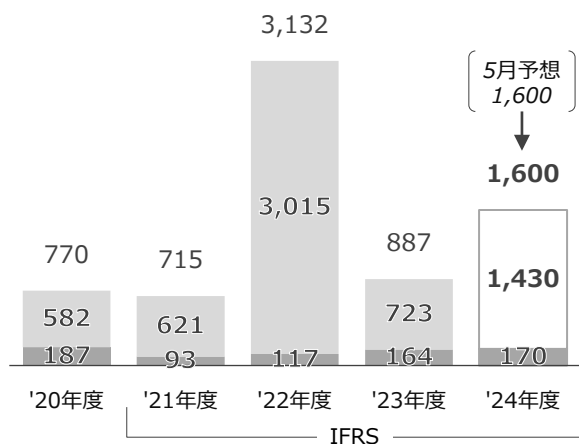
受注高	➡	大きな変動はなく、前年同期並み
_____	_____	_____
+6 億円		
売上収益	➡	国内向け車両やアジア向け車両が減少したものの、米国向け車両が増加したことにより前年同期並み
_____	_____	_____
+3 億円		
事業利益	➡	間接費配賦率の見直しを実施した影響で費用が集中※したことなどにより悪化
_____	_____	_____
▲14 億円		

※ 通期の損益計画に影響なし

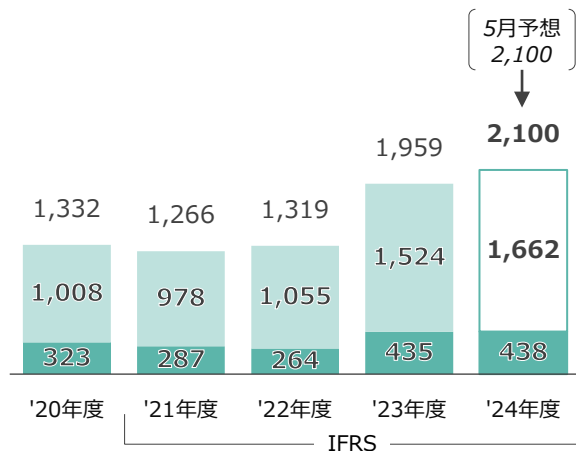
2024年度予想（従来予想比）

受注高	➡	大きな変動はなく、見通しを据え置き
_____	_____	_____
±0 億円		
売上収益	➡	同 上
_____	_____	_____
±0 億円		
事業利益	➡	同 上
_____	_____	_____
±0 億円		

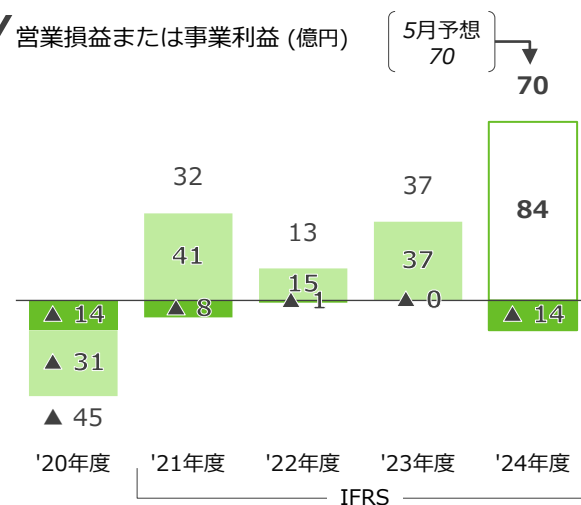
／ 受注高 (億円)



／ 売上高または売上収益 (億円)



／ 営業損益または事業利益 (億円)



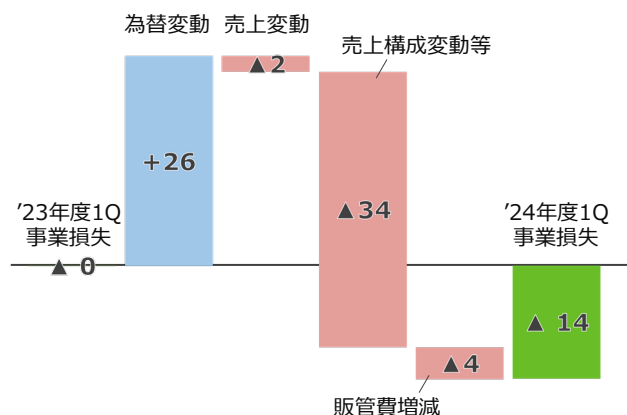
(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します

3 セグメント別詳細情報 - 車両

(単位：億円)

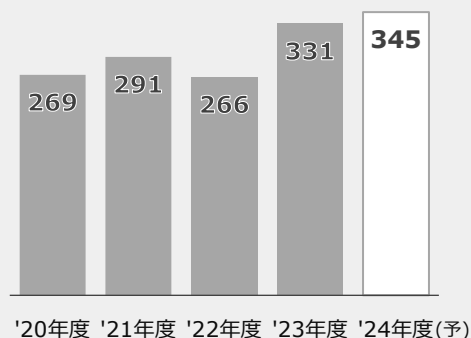
	'23年度 1Q実績	'24年度		'23年度 通期	'24年度予想				
		1Q実績	前年同期比		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	164	170	+ 6	887	1,600	1,600	+ 713	-	1,430
うち 国内・アジア	153	151	▲ 1	873	1,400	1,400	+ 527	-	1,249
北米	11	19	+ 8	14	200	200	+ 186	-	181
売上収益	435	438	+ 3	1,959	2,100	2,100	+ 141	-	1,662
うち 国内・アジア	150	94	▲ 55	812	650	650	▲ 162	-	556
北米	284	343	+ 59	1,146	1,450	1,450	+ 304	-	1,107
事業損益	▲ 0	▲ 14	▲ 14	37	70	70	+ 33	-	84
	[利益率] [▲ 0.0%]	[▲ 3.4%]	[▲ 3.3pt]	[1.9%]	[3.3%]	[3.3%]	[+ 1.3pt]	[-]	[5.1%]

事業損益増減要因 (億円)



補足情報

部品・改造・アフター関連売上(単位：億円)

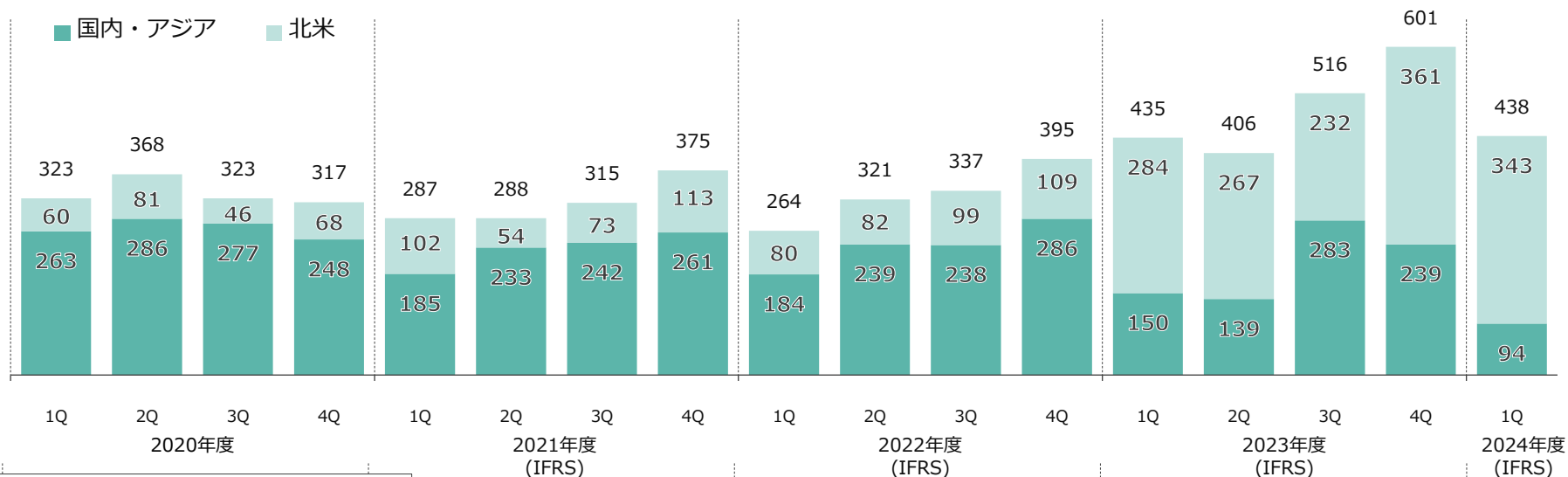


米国ニューヨーク地下鉄向け
R211プロジェクトの進捗状況 ('24年6月末)

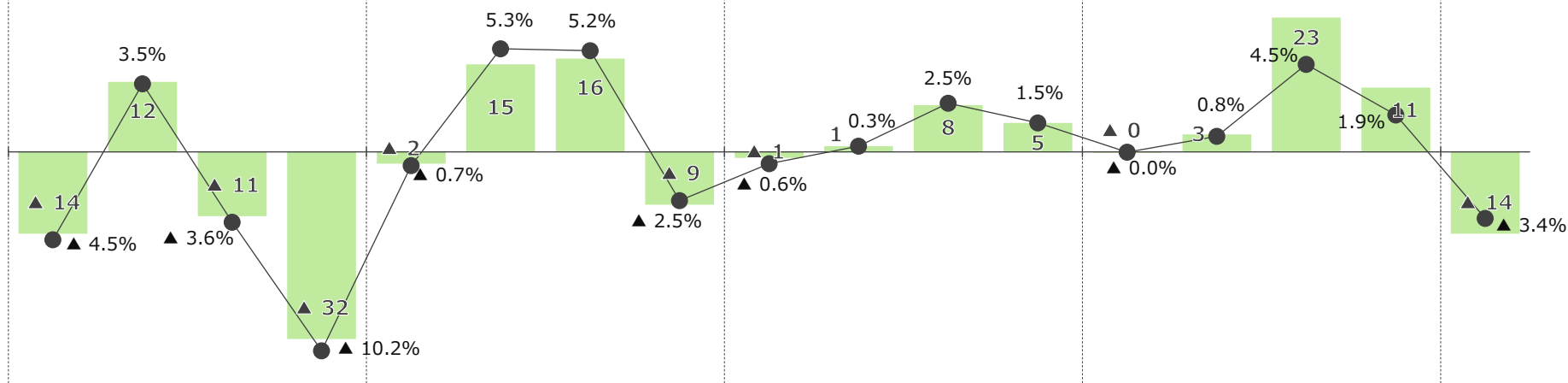
- Base契約車両全535両のうち、**230両を引渡し済み**
- Base契約最終車両引渡しは2024年度4Qを予定
- 後続のOption1契約は640両を受注済、24年度中の生産開始を予定

3 セグメント別詳細情報 - 車両

四半期別 売上高または売上収益 (億円)



四半期別 営業損益または事業損益 (億円)



3 セグメント別詳細情報 - 車両

事業環境・受注動向

- 国内市場
 - インバウンドの復調等により、鉄道乗客数がコロナ禍以前の約9割まで回復し、鉄道車両への投資が再開
- サプライチェーンリスク
 - 電子部品を中心とした機器調達の長期化に注視が必要も、足元での影響は限定的
- 中長期展望
 - 海外市場において大都市の環境対策のための都市交通整備、アジア諸国の経済発展に伴う鉄道インフラニーズなど、今後も世界的に安定した成長が見込まれる

重点施策と具体的な取り組み



海外案件の納入スケジュール遵守

- 主要案件のマイルストーン（米国向けR211を除く）

案件	ステータス	マイルストーン
ダッカ 6号線	▶ 全24編成（144両）のうち22編成まで顧客に引渡し済	最終車両引渡し 2024年度2Q 基地設備引渡し 2024年度2Q
米国 M-9	▶ 2021年度1QにBase契約（92両）は完工 ▶ Option車両（110両）は最終車両出荷済み（残り8両が客先検収中）	最終車両出荷 2023年度4Q完了



顧客に信頼される品質レベルの達成

- 仕損じ、手直し費用の削減
- KPS (Kawasaki Production System)の更なる推進



部品・サービスの拡販、保守分野の事業拡大

- 北米向け軌道遠隔監視装置の拡販
- 国内鉄道事業者向けへの車両状態監視装置の拡販



ダッカ都市交通会社
(Dhaka Mass Transit
Company Limited) 向け
都市高速鉄道車両

2024年度1Q実績（前年同期比）

受注高



+195 億円

防衛省向け艦艇用機器などの減少はあったものの、LPG/アンモニア運搬船を複数隻受注したことに伴い増加

売上収益



+94 億円

防衛省向け艦艇用機器の増収などにより増収

事業利益



+1 億円

増収はあったものの、固定費の増加などにより前年同期並み

2024年度予想（従来予想比）

受注高



+100 億円

防衛省向け艦艇用機器の増加により、見通しを引き上げ

売上収益



±0 億円

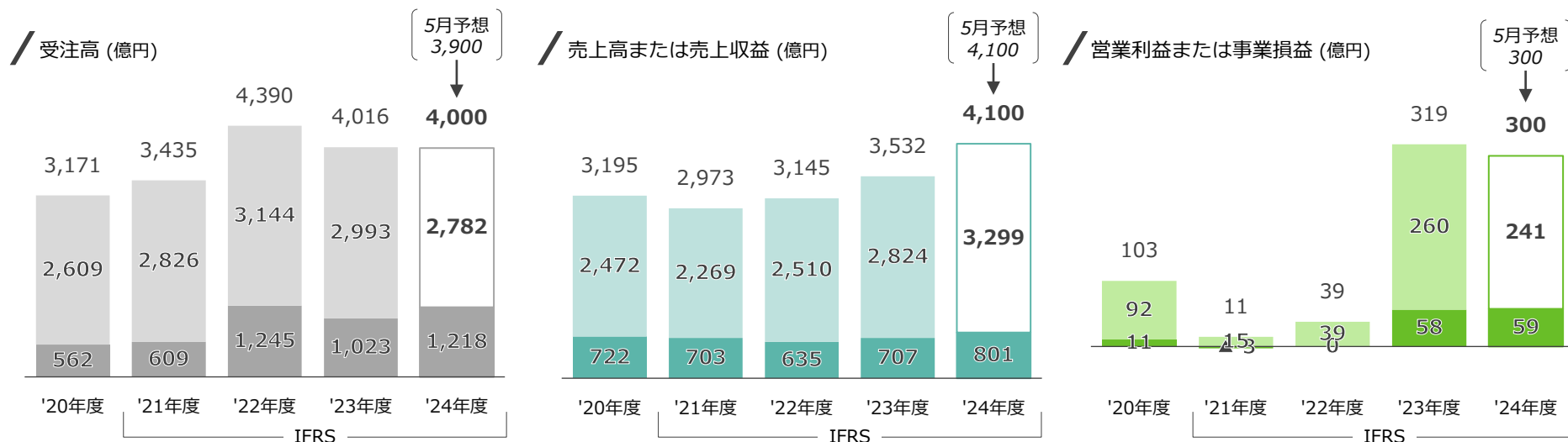
大きな変動はなく、見通しを据え置き

事業利益



±0 億円

同 上



(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します

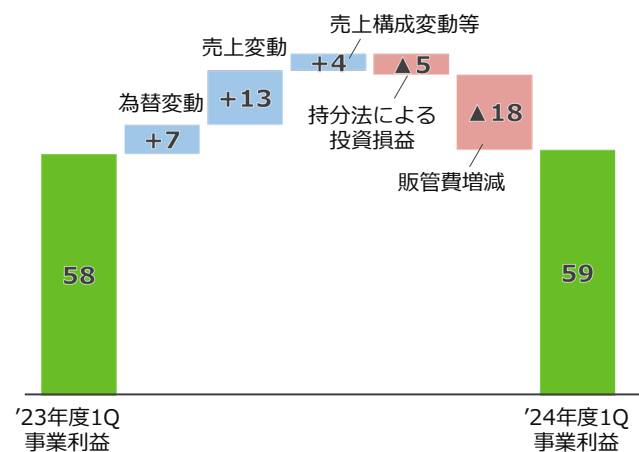
3

セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

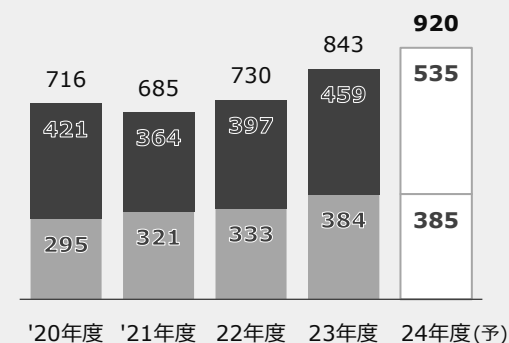
(単位：億円)

	'23年度 1Q実績	'24年度		'23年度 通期	'24年度予想				
		1Q実績	前年同期比		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	1,023	1,218	+ 195	4,016	3,900	4,000	▲ 16	+ 100	2,782
うち IHCパワー・プラント・船用推進	947	565	▲ 382	3,588	2,900	3,000	▲ 588	+ 100	2,435
船舶海洋	75	653	+ 577	427	1,000	1,000	+ 573	-	347
売上収益	707	801	+ 94	3,532	4,100	4,100	+ 568	-	3,299
うち IHCパワー・プラント・船用推進	479	548	+ 68	2,606	3,200	3,200	+ 594	-	2,652
船舶海洋	228	253	+ 25	925	900	900	▲ 25	-	647
事業利益	58	59	+ 1	319	300	300	▲ 19	-	241
[利益率]	[8.3%]	[7.5%]	[▲ 0.8pt]	[9.0%]	[7.3%]	[7.3%]	[▲ 1.7pt]	[-]	[7.3%]
うち 持分法投資利益	68	62	▲ 5	137	155	155	+ 18	-	93

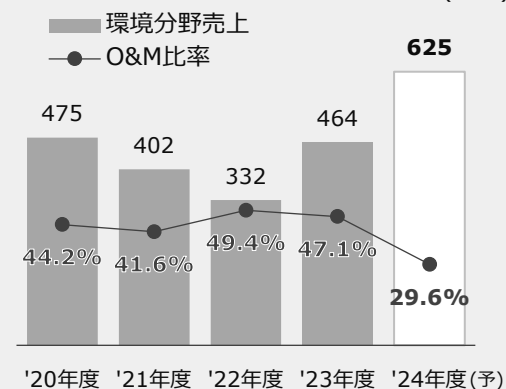
事業損益増減要因 (億円)



補足情報

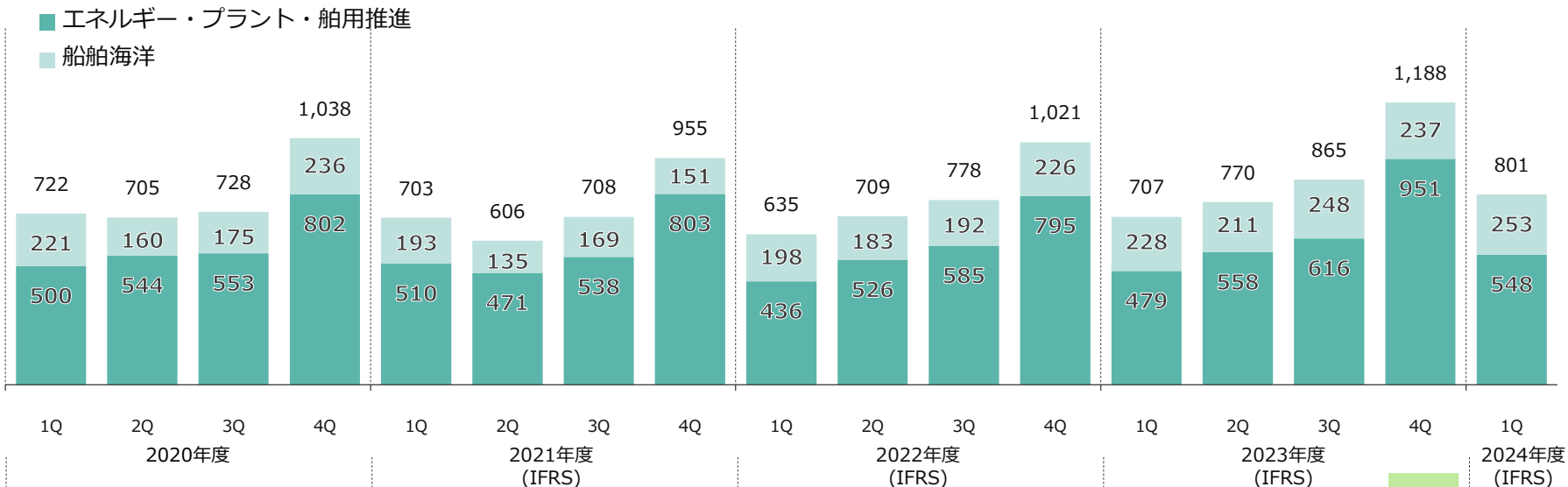
エネルギー事業における主要製品の売上 (億円)
(上段：機器関連 下段：アフターサービス)

プラント事業における環境分野の売上 (億円)

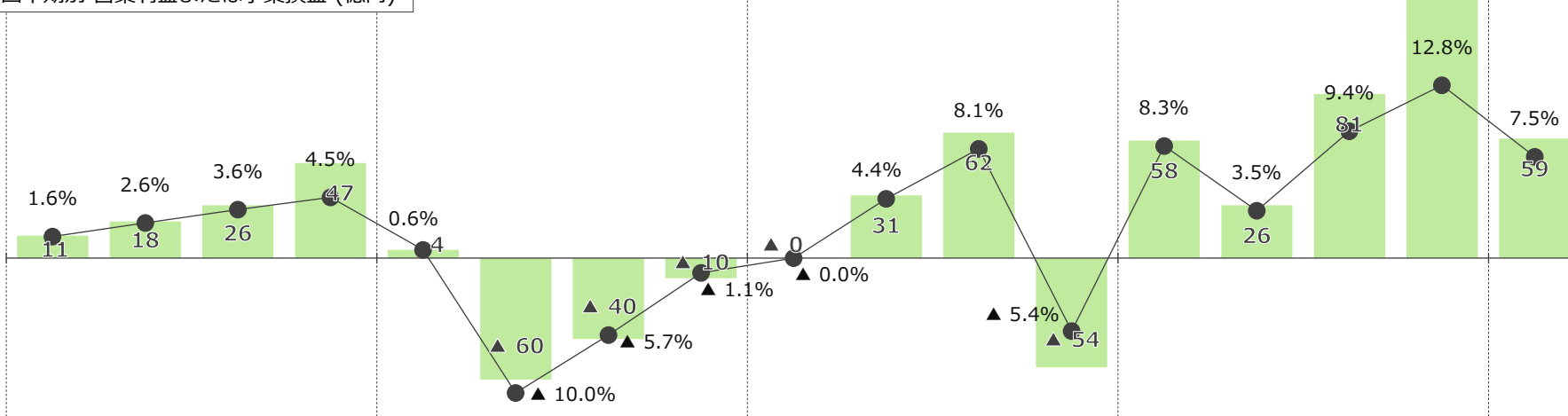


四半期別 売上高または売上収益 (億円)

(注) 過年度実績は変更後の報告セグメントに組替えて表示しています



四半期別 営業利益または事業損益 (億円)



事業環境・受注動向

● エネルギー・プラント・船用推進

国内	海外
- 分散型電源の根強い需要 - ごみ焼却設備の老朽化更新需要の継続	- 新興国では分散型電源等のエネルギーインフラ整備需要が根強い - 先進国では水素関連の受注・引合いが増加

● 船舶海洋

商船	艦艇・特殊船
- 船価は資機材高騰の影響を受け、高値継続傾向 - 造船各社は当面の船台を埋めており、商談は先物納期が中心	潜水艦は安定的な受注

● セグメント全体

リスク	カーボンニュートラル
- 発電設備の稼働に必要な燃料ガスの供給安定性 - 原材料価格や資機材・燃料費の高止まりによる収益の圧迫を懸念	当社が強みとする水素製品をはじめ、脱炭素ソリューションに関する問い合わせや協力要請が増加

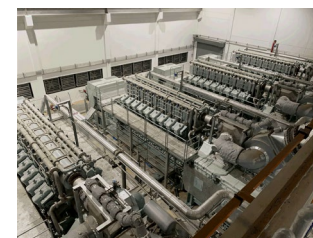
重点施策と具体的な取り組み

☒ 脱炭素ソリューションの提供へ向けた取り組み

事例 水素30%混焼大型ガスエンジン実証設備を建設

- 当社神戸工場で稼働中の8MW級ガスエンジン発電設備を水素混焼対応仕様へ改造
- 8MW級の水素30%混焼フルスケール実証設備建設工事は**国内初**
- 水素30%混焼により、都市ガス燃焼時と比べ約1,150トンのCO₂を削減可能※

※ 発電出力7,500kW、年間4,000時間運転、CO₂排出係数2.29kgCO₂/Nm³の場合



カワサキグリーンガスエンジン「KG-18-T」

☒ 人々の安全・安心な暮らしの実現に貢献する製品・サービスの提供

事例 地下シェルター用換気装置の実証開始

- 災害・防衛等を想定した民間地下シェルター用の換気装置の開発は**国内初**
- '26年の市場投入を目標に'24年5月よりプロトタイプ機での実証試験を実施中
- 外気中のエアロゾル遮断には、ガス透過膜を用いた当社開発の新換気システム「SEPERNA®」を、有毒ガスの除去には、特殊な化学フィルタを適用



地下シェルター用換気装置（初期プロトタイプ機）

2024年度1Q実績（前年同期比）

受注高 
+76 億円

半導体製造装置向けロボットや自動車向けロボットが増加したことなどにより増加

売上収益 
+33 億円

半導体製造装置向けロボットが増加したことや精密機械分野の増加などにより増収

事業利益 
+24 億円

増収や採算性の向上などにより改善

2024年度予想（従来予想比）

受注高 
±0 億円

大きな変動はなく、見通しを据え置き

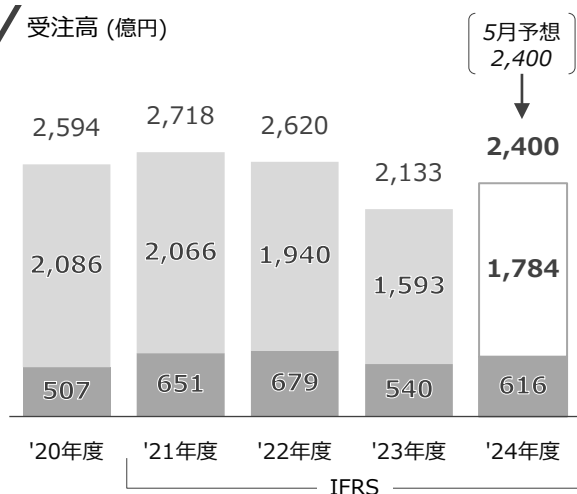
売上収益 
±0 億円

同 上

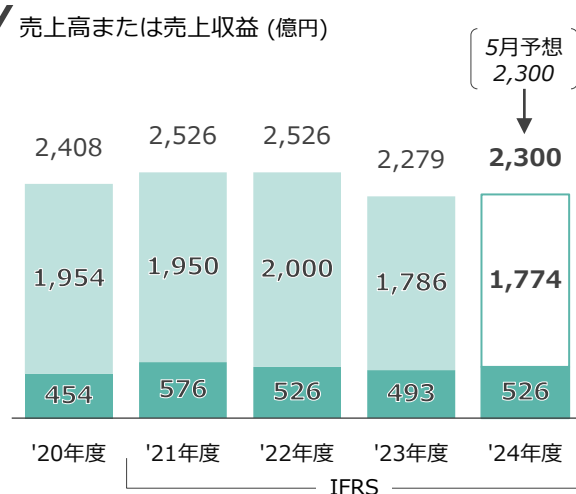
事業利益 
±0 億円

同 上

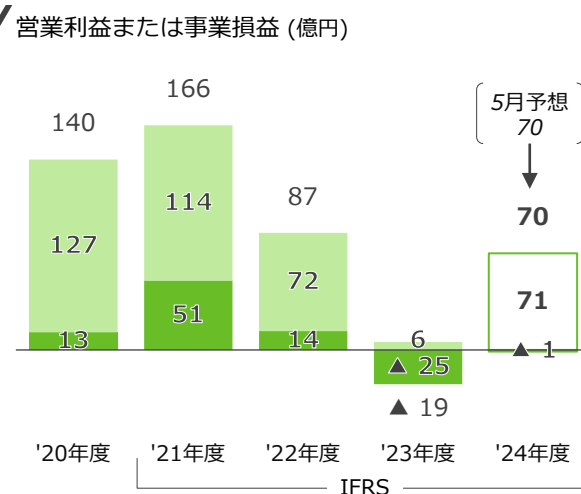
受注高（億円）



売上高または売上収益（億円）



営業利益または事業損益（億円）



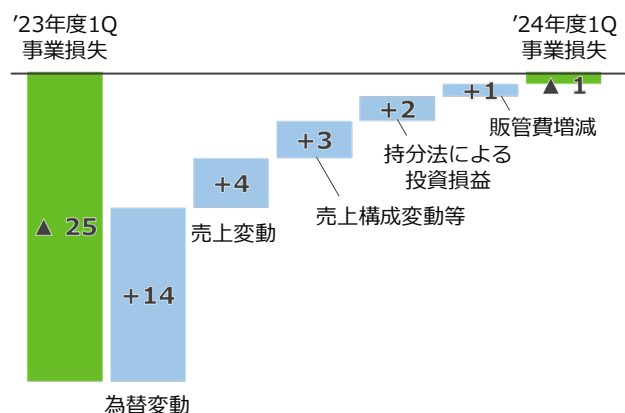
(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します

3 セグメント別詳細情報 – 精密機械・ロボット

(単位：億円)

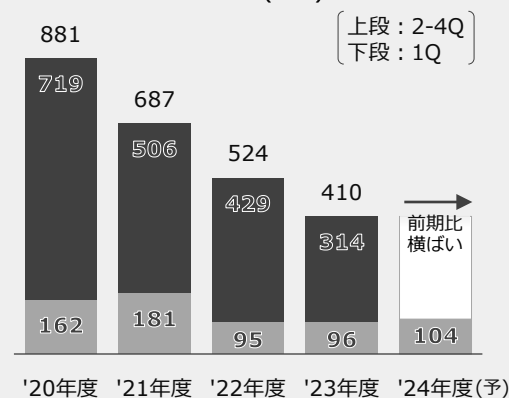
	'23年度 1Q実績	'24年度		'23年度 通期	'24年度予想				
		1Q実績	前年同期比		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	540	616	+ 76	2,133	2,400	2,400	+ 267	-	1,784
うち 油圧機器	366	360	▲ 5	1,361	1,500	1,500	+ 139	-	1,140
ロボット	173	256	+ 82	772	900	900	+ 128	-	644
売上収益	493	526	+ 33	2,279	2,300	2,300	+ 21	-	1,774
うち 油圧機器	330	355	+ 25	1,415	1,400	1,400	▲ 15	-	1,045
ロボット	162	170	+ 7	863	900	900	+ 37	-	730
事業損益	▲ 25	▲ 1	+ 24	▲ 19	70	70	+ 89	-	71
[利益率]	[▲ 5.2%]	[▲ 0.3%]	[+ 4.9pt]	[▲ 0.9%]	[3.0%]	[3.0%]	[+ 3.8pt]	[+ 0.0pt]	[4.0%]
うち 持分法投資損益	▲ 7	▲ 4	+ 2	▲ 25	▲ 20	▲ 20	+ 5	-	▲ 16

事業損益増減要因 (億円)



補足情報

中国向け油圧機器売上 (億円)

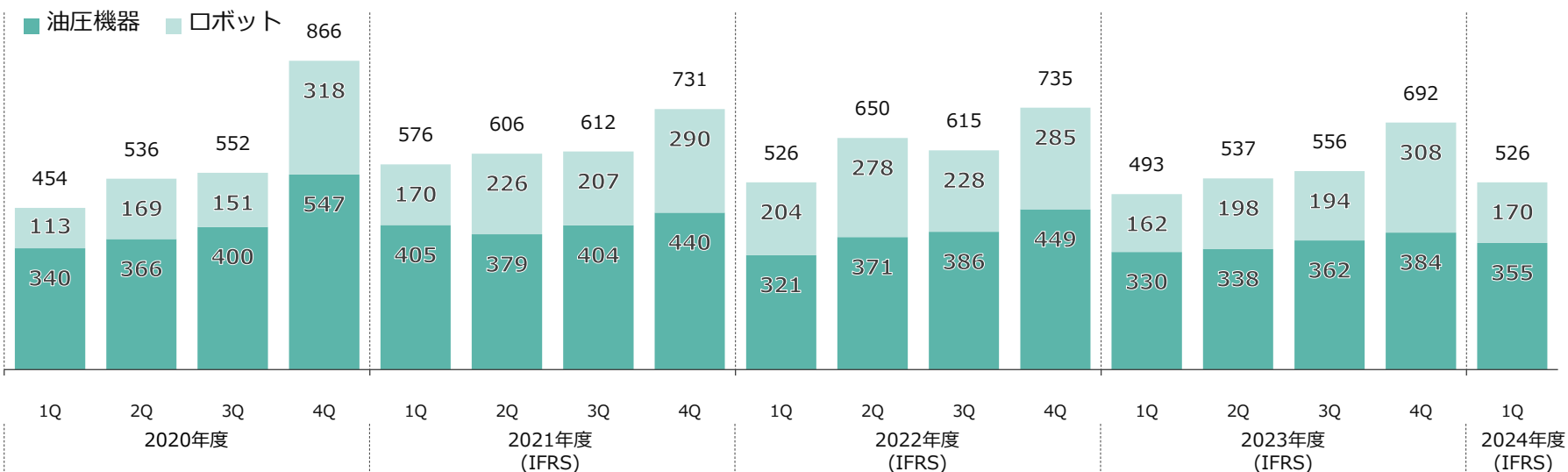


ロボット分野別売上※ (単位：億円)

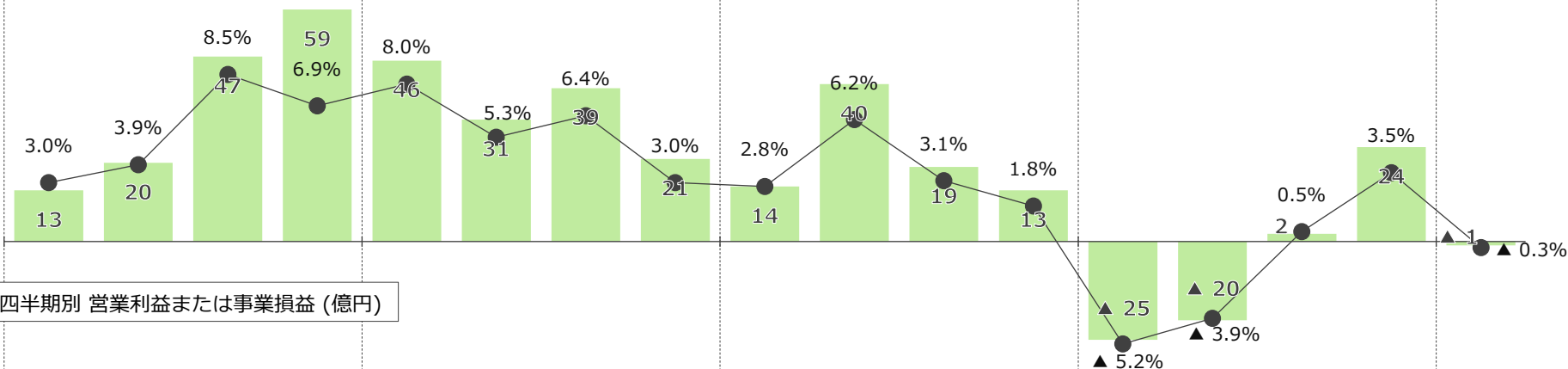
	'23年度	'24年度	増減
車体組立・塗装	57	57	+ 0
	389	(予) 370	▲ 19
半導体	52	74	+ 22
	274	(予) 355	+ 81
一般産機・その他	69	52	▲ 16
	286	(予) 300	+ 14
合計	178	184	+ 5
	949	(予) 1,025	+ 76

※ 本表数値はセグメント間売上を含む

四半期別 売上高または売上収益 (億円)



四半期別 営業利益または事業損益 (億円)



事業環境・受注動向

● 油圧機器

- 中国建設機械市場
不動産不況の長期化等により低迷していた需要に小型機を中心として下げ止まりの兆候
- 中国以外の地域における建設機械市場
欧米を中心に若干の陰りが見える
- 建設機械の分野は今後、環境規制を背景とした電動化と、建設現場の熟練労働者不足に起因する自動化・自律化が進む

● ロボット

- 汎用ロボット
中国の景気低迷に伴い需要は依然低調なものの、人件費上昇や労働力不足を背景として自動化需要は潜在的に高まっている
- 半導体製造装置向けロボット
半導体メモリ市況の一時的な低下が底を打ち、需要は回復傾向
- サプライチェーン
電子部品等の供給不足や物流混乱などは改善傾向も電子部品や素材費は高止まり

重点施策と具体的な取り組み



油圧事業の発展に向けた施策

建機向け新製品開発/市場開拓

- 電動化・自動化に向け、高い制御技術・開発力を活用し市場を開拓

アフターセールス事業の強化

- 過去の販売実績を活かしたアフターセールスの拡大と販売ネットワーク構築・拡大

水素関連事業/防衛事業の強化

- 水素圧縮機、燃料電池システムなどの開発
- 当社グループ内向け防衛関連製品の拡充



建設機械向け新電動油圧システム



ロボット事業の戦略性ある挑戦

高付加価値領域への集中投資

- 半導体市場の本格的回復に向けた供給体制整備
- 新分野（真空/後工程・EFEM・工場自動化etc.）の拡大

医療向け事業の強化

- 「hinotori™」の普及（メディカロイド社、シスメックス社と共同）
- 遠隔操作技術等による差別化

ブランド力の強化

- ユニコーン企業とのスピード感のある協業推進
- ソーシャルロボット分野の事業化推進

hinotori™
Surgical Robot System

進捗

- ✓ 累計導入数：61台
- ✓ 累計症例数：5,200症例超
- ✓ 呼吸器外科での厚生労働省承認（'24年4月）および保険適用開始（'24年6月）

2024年度1Q実績（前年同期比）

売上収益 
+7 億円

北米向け四輪車がリコール※に伴う出荷遅れの影響などで一時的に減少したものの、二輪車の増加や為替レートが円安で推移した影響などにより前年同期並み

事業利益 
▲27 億円

固定費の増加などにより減益

2024年度予想（従来予想比）

売上収益 
±0 億円

大きな変動はなく、見通しを据え置き

事業利益 
±0 億円

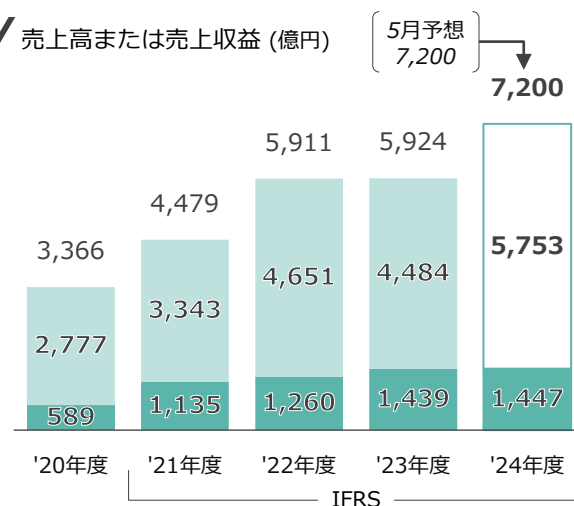
同 上

※ 対象：MULE PRO 1000シリーズ
（既に対策が施された製品にて出荷再開済み）

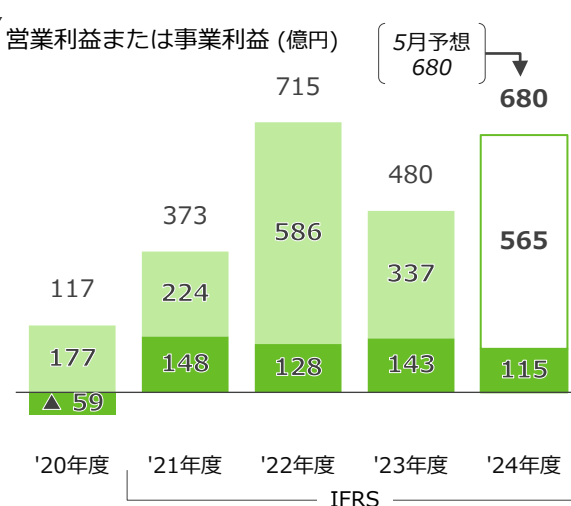
受注高（億円）

本セグメントは主として見込み生産を行っていることから、受注高については売上高または売上収益と同額としているため、定性情報およびグラフの掲載を省略しています

売上高または売上収益（億円）



営業利益または事業利益（億円）



（注）グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表します

3 セグメント別詳細情報 – パワースポーツ&エンジン

(単位：億円)

	'23年度 1Q実績	'24年度 1Q実績	前年同期比	'23年度 通期	従来予想	修正予想	'24年度予想 前期比	従来予想比	2-4Q予想
売上収益	1,439	1,447	+ 7	5,924	7,200	7,200	+ 1,276	-	5,753
うち 先進国二輪車	509	611	+ 101	2,179	2,380	2,380	+ 201	-	1,769
新興国二輪車	201	234	+ 33	1,034	1,040	1,040	+ 6	-	806
四輪車・PWC	454	347	▲ 107	1,806	2,850	2,850	+ 1,044	-	2,503
汎用エンジン	273	254	▲ 19	903	930	930	+ 27	-	676
事業利益	143	115	▲ 27	480	680	680	+ 200	-	565
	[利益率] [9.9%]	[8.0%]	[▲ 1.9pt]	[8.1%]	[9.4%]	[9.4%]	[+ 1.2pt]	[-]	[9.8%]

補足情報

地域別販売台数（卸売）

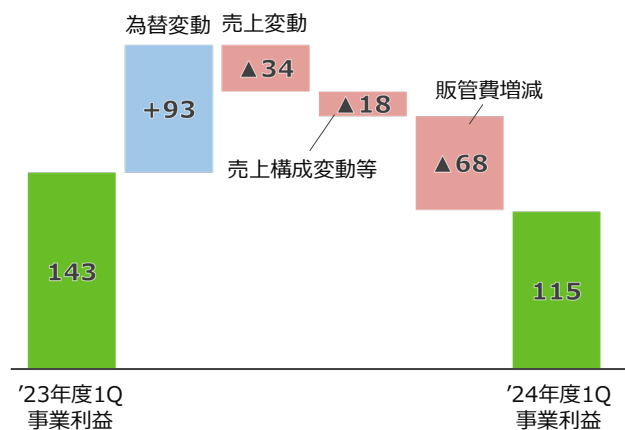
(単位：千台)

		'23年度1Q	'24年度1Q	増減	'24年度(予)
先進国二輪車	日本	7	6	▲ 0	
	北米	22	23	+ 0	
	欧州	18	21	+ 3	
	その他※	2	1	▲ 0	
	小計	50	53	+ 2	260
新興国二輪車	フィリピン	29	47	+ 18	
	インドネシア	4	7	+ 2	
	中南米	2	2	+ 0	
	その他※	9	6	▲ 2	
	小計	45	63	+ 17	260
四輪車・PWC	北米ほか	22	11	▲ 10	140

(※) 先進国二輪車および新興国二輪車の「その他」に含まれる国または地域における前年同期比増減トレンドは以下のとおり

豪州： 
 中国： 
 タイ： 

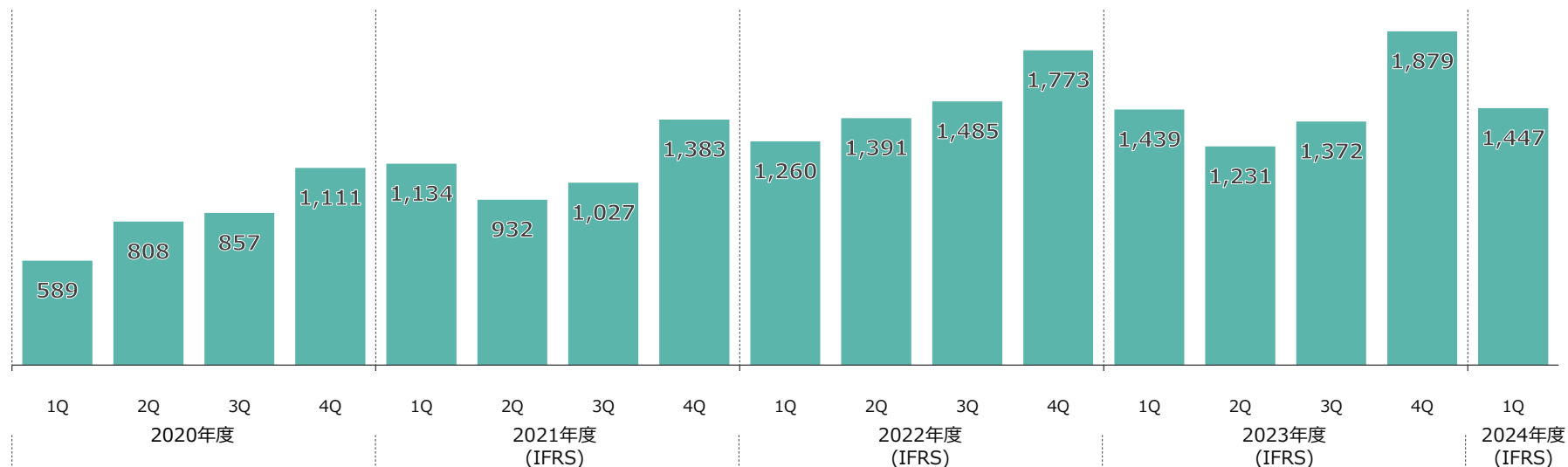
事業利益増減要因（億円）



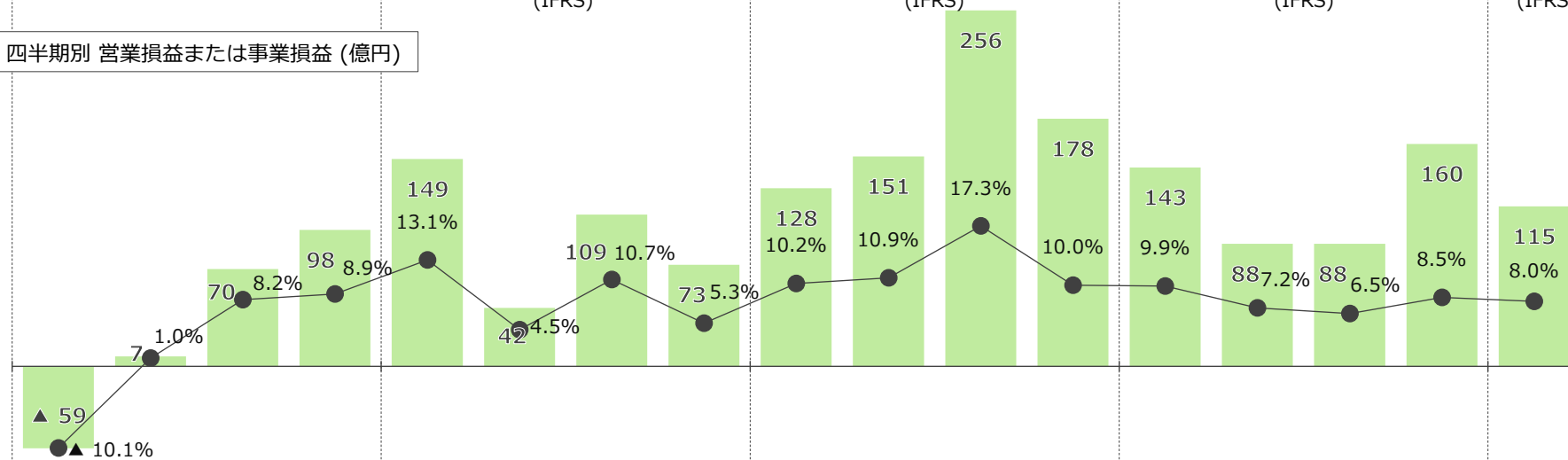
3

セグメント別詳細情報 - パワースポーツ&エンジン

四半期別 売上高または売上収益 (億円)



四半期別 営業損益または事業損益 (億円)



事業環境・受注動向

- 米国（二輪）
 - ストリート市場が堅調に推移する一方、オフロード市場は軟化
 - 各社の積極的な商品供給により競争が激化している
- 米国（四輪）
 - 中長期的には市場成長を見込むものの、足元ではコロナ特需の反動が継続しており、短期的に需要は減退傾向にあるなかで販促競争が激化
 - ユーティリティモデルが堅調な一方、レクリエーションモデルは軟調に推移
- 欧州
 - 小売市場は堅調に推移しているなかで、当社のシェアは供給力の回復や新機種効果に伴い上昇傾向
- 東南アジア
 - スポーツセグメントは軟調に推移

重点施策と具体的な取り組み



市場動向に応じた製品の供給

- 継続的な新機種の投入
- 販売状況に応じて、機動的に生産・販売計画を変更
- 適正な在庫水準の維持



四輪ビジネスの拡大、脱炭素・電動化対応

- 製品競争力強化に向けた開発投資
- メキシコ新工場の稼働開始により、四輪車生産能力を向上
- 電動・ハイブリッドモデルの上市
- 電動化に加え、あらゆる選択肢を通じて、カーボンニュートラル社会の実現に貢献



‘24年4月より、メキシコ新工場において四輪車の生産を開始



DXを通じた業務改革の推進

- デジタル化によるアジャイルな経営の実現
- デジタル技術活用による開発期間の短縮と効率化



世界初※のストロングハイブリッドモーターサイクル
Ninja 7 Hybrid / Z7 Hybrid

※当社調べ



FCFの確保

- 将来の投資に向けてFCFの安定確保を目指す

配当政策

中長期的な
連結配当性向の基準 **30%**

考慮

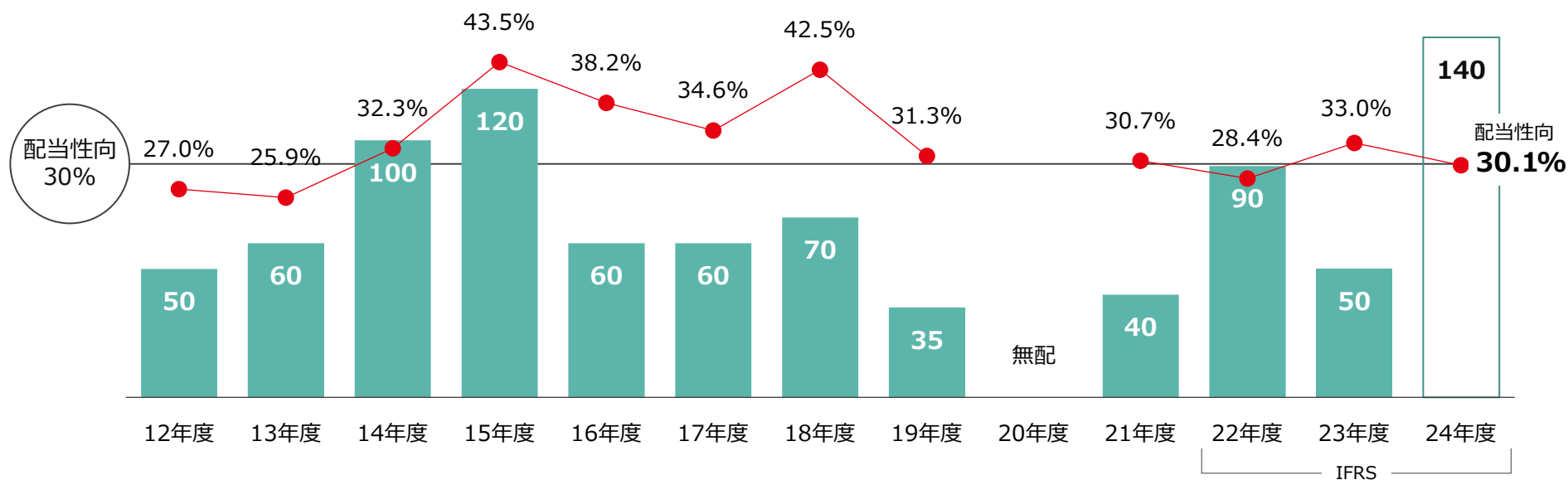
1 総合的に勘案

2 安定的な配当

将来の業績見通し
FCFやD/Eレシオ等の
財務状況

2024年度配当

1株当たり年間配当 **140円**（配当性向30.1%）
予定を据え置く





✓ ダイムラー・トラックと「液化水素サプライチェーンの構築等に向けた協力の覚書」を締結

- '24年6月 ダイムラー・トラックと「ドイツ向け液化水素サプライチェーンの構築および欧州における液化水素ステーションの輸送網の構築に向けた協力の覚書」を締結
- 本覚書は、道路貨物輸送における液化水素の利用拡大を目指すもので、液化水素ターミナル、大型および中規模の海上輸送、大規模な液体水素貯蔵についても、あわせて検討を進める

“川崎重工との取組みは、経済的な価格でグリーン水素の提供を実現するために、ダイムラー・トラックが追求している包括的な視点と活動をより一層強化することに繋がります”

ダイムラー・トラック
 取締役会会長兼CEO
 マーティン・ダウム氏

写真手前左より 当社取締役会長 金花芳則、ダイムラー・トラック マーティン・ダウム取締役会会長兼CEO
 写真奥左より 在ドイツ日本国大使館 柳秀直 特命全権大使、経済産業省 岩田和親 副大臣、欧州委員会上級委員 マロシュ・シェフチョビッチ副委員長、連邦経済・気候保護省 ステファン・ヴェンツェル 政務次官



4 プロジェクトトピックス

✓ 水素エンジンモーターサイクルの公開走行を実施

- '24年7月20日 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)にて、量産メーカーとして**世界初**※1となる水素エンジンモーターサイクルの公開走行を実施
- 内燃機関特有のフィーリングを楽しみながらライダーがカーボンニュートラルに貢献できる未来に一步前進
- 2030年代前半の実用化を目指した研究開発を進める

※1 カワサキモータース調べ (2024年7月20日現在)

※2 EV: Electric Vehicle HEV: Hybrid Electric Vehicle



「何が勝つか」ではなく、
目的はカーボンニュートラル

カワサキモータースとしてはEV・HEV※2も開発している。加えて、燃料に水素を使ったエンジンで、カーボンニュートラルを実現する世界を目指したい。

エンジンの鼓動や胸のすく加速感、そういった“FUN”（楽しさ）を大事にしたうえで、ひとりひとりが知らないうちにカーボンニュートラルを実現している、そういう世界を実現したい。

Message from **KAWASAKI**



当社プレスリリースのURL
https://www.khi.co.jp/pressrelease/detail/20240722_1.html



4 プロジェクトトピックス

✓ 鹿島建設と大気中のCO₂をコンクリートに吸収・固定する共同研究を開始

- 当社が保有する先進的DAC (Direct Air Capture) 技術を、鹿島らが開発したCO₂吸収コンクリート「CO₂-SUICOM」(シーオーツスイコム)の製造に利用するための共同研究を開始

背景

現状、鹿島の「CO₂-SUICOM」製造に用いるCO₂は外部からの購入であり、CO₂の調達手段に課題

解決

必要なCO₂を必要な場所でタイムリーに調達できるDACがソリューション

- 今後、プレキャストコンクリート製品工場に適したDAC装置の構成を検討し、「CO₂-SUICOM」の製造実証を進める



当社プレスリリースのURL
https://www.khi.co.jp/pressrelease/news_240726-1.pdf



当社の保有する先進的DAC技術とは

多孔質材料とアミン※1化合物からなる固体吸収材料を用いて大気中のCO₂を吸収し、60℃程度の低温蒸気を用いて吸収したCO₂を分離・回収する技術

※1 CO₂を化学的に吸収することで知られる物質



CO₂吸収コンクリート「CO₂-SUICOM」とは

コンクリート製造時に炭酸化養生※2を行うことで、CO₂を吸収・固定し、CO₂排出量を実質ゼロ以下にできる技術

※2 CO₂を封入した槽内でコンクリートを養生し、強制的にCO₂を吸収・固定させる方法



4 プロジェクトトピックス

✓ 屋内配送ロボット「FORRO」がサービスイン —— 安全安心リモート社会の実現へ

- 藤田医科大学病院（愛知県豊明市）および藤田医科大学 東京 先端医療研究センター（東京都大田区）において、2024年4月1日より正式導入
- 9か月間のトライアルサービスにおいて確認された **導入効果**が高く評価

- ✓ 1台のFORROで、看護補助の配送係3名を平日 日中の別業務に振替えが可能
- ✓ 看護師による配送業務や臨床検査部による検体 回収業務の代替が可能

- 今後も医療従事者の負担軽減および業務効率化に向け、サービスの拡充を図る



現場の声

スタッフが少ない夜間帯の検体搬送でも
とても役に立っています



看護師が本来の看護業務にあたる時間
が増えました



第54回機械工業デザイン賞IDEAにおいて
日本ロボット工業会賞を受賞（24/7）



オフィシャルムービー

<https://www.youtube.com/watch?v=ziMds-eM4rU>



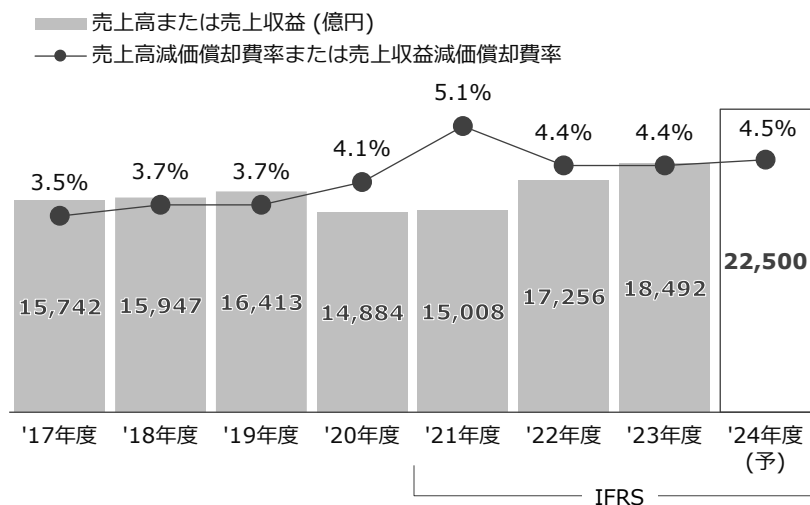
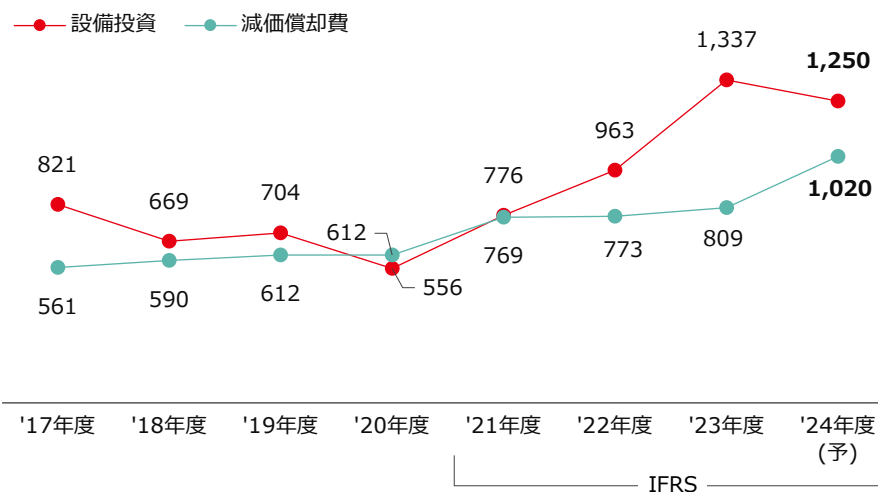
当社プレスリリースのURL
https://www.khi.co.jp/news/detail/20240710_1.html

よろしくね



(単位：億円、名)

	'23年度 1Q実績	'24年度		'23年度 通期	'24年度	
		1Q実績	前年同期比		予想	前期比
設備投資	259	339	+ 80	1,337	1,250	▲ 87
減価償却費	197	211	+ 13	809	1,020	+ 211
研究開発費	113	136	+ 23	535	630	+ 95
従業員数(期末)				39,689	41,920	+ 2,231
うち国内				28,099	29,500	+ 1,401
うち海外				11,590	12,420	+ 830



● 四半期別受注高推移 (億円)

	2022年度				2023年度				2024年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
航空宇宙システム	604	651	751	1,447	1,187	744	1,392	3,600	882
航空宇宙	459	464	480	1,134	1,044	980	1,080	2,463	543
航空エンジン	144	187	270	313	142	▲ 236	312	1,137	339
車両	117	276	2,550	188	164	136	117	469	170
エネルギーソリューション&マリッ	1,245	1,138	634	1,371	1,023	1,160	628	1,204	1,218
エネルギー・プラント・船用推進	943	966	449	566	947	932	582	1,125	565
船舶海洋	301	172	184	805	75	227	45	78	653
精密機械・ロボット	679	715	580	644	540	490	546	557	616
油圧機器	376	431	374	364	366	309	343	342	360
ロボット	303	284	206	279	173	181	202	214	256
パワースポーツ&エンジン	1,260	1,391	1,485	1,773	1,439	1,231	1,372	1,879	1,447
その他	213	371	96	183	217	270	235	221	233
合計	4,120	4,545	6,099	5,609	4,573	4,034	4,292	7,933	4,568

● 防衛省向け受注高・売上収益 (億円)

	'23年度 1Q実績	'24年度		'23年度 通期	'24年度予想			
		1Q実績	前年同期比		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比
受注高	893	248	▲ 645	5,530	5,890	6,515	+ 985	+ 625
うち 航空機 他	614	135	▲ 479	3,966	4,505	5,030	+ 1,064	+ 525
航空エンジン	4	12	+ 8	524	165	235	▲ 289	+ 70
潜水艦、艦艇用主機 他	275	101	▲ 174	1,040	1,220	1,250	+ 210	+ 30
売上収益	529	725	+ 196	2,885	4,000	4,060	+ 1,175	+ 60
[全社の売上収益に占める割合]	[13.1%]	[16.3%]		[15.6%]	[17.8%]	[18.0%]		
うち 航空機 他	358	467	+ 109	1,923	2,860	2,880	+ 957	+ 20
航空エンジン	22	42	+ 20	175	260	260	+ 85	-
潜水艦、艦艇用主機 他	149	216	+ 67	787	880	920	+ 133	+ 40

● 受注残高 (億円)

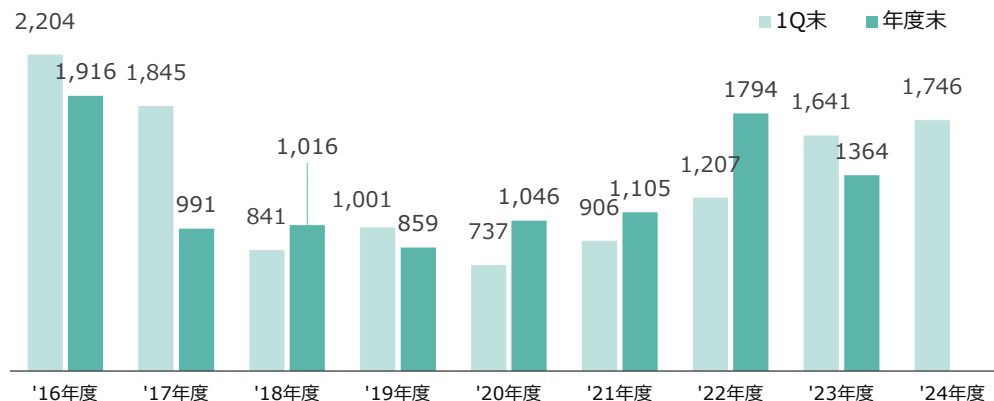
	'23年度1Q末 実績	'24年度1Q末	
		実績	増減
航空宇宙システム	7,092	10,277	+ 3,185
車両	5,434	4,762	▲ 671
エネルギーソリューション&マリン	6,606	7,263	+ 656
精密機械・ロボット	1,028	926	▲ 102
パワー・スポーツ&エンジン	-	-	-
その他	320	442	+ 122
合計	20,482	23,672	+ 3,190

● 地域別売上収益 (億円)

	'23年度1Q 実績	'24年度1Q	
		実績	増減
日本	1,389	1,575	+ 185
米国	1,380	1,450	+ 69
欧州	426	550	+ 123
アジア	571	656	+ 85
その他	285	209	▲ 75
合計	4,053	4,442	+ 388

※ 売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています

● 船舶海洋 受注残高の推移 (億円)



● 船種別受注実績および完工年度 (隻)

	受注 '24年度 1Q 実績	完工年度				受注残
		'24年度 1Q 実績	'24年度 2Q~	'25年度	'26年度~	
LPG運搬船	3	1	2	4	5	11
潜水艦			1		1	2
その他						
合計	3	※1 1	3	4	6	※2 13

※1 '24年度1Q完工隻数の総トン数：50,400GT

※2 受注残隻数の総トン数：554,400GT（潜水艦の排水トン数はGTに含まない）

● 通貨別損益影響外貨量※1 (億USD、億EUR)

		'23年度 1Q実績	'24年度	
			1Q実績	2-4Q予想
USD	航空宇宙システム	1.5	※2 1.6	5.2
	車両	0.7	0.7	1.5
	エネルギーソリューション&マリッ	0.8	0.6	0.9
	精密機械・ロケット	0.3	0.3	0.9
	パワーシステム&エンジン	1.1	1.7	6.6
	合計	4.5	※2 4.9	15.1
EUR		1.0	1.0	3.2

※1 為替変動に伴い事業利益に影響を与える外貨量であり、USDおよびEURのみ記載（川崎重工業、川崎車両、カワサキモーターズの外貨建売上から外貨建仕入を控除して算出（損失引当済み案件の外貨建売上を含む））

（例）損益影響外貨量が10億USDある場合、為替レートが対USDで1円円安または円高に変動すると、事業利益が10億円増加または減少

※2 PW1100G-JMエンジンの運航上の重要な問題に係る外貨建返金負債残高を除く

● 売上加重平均レート (EUR/JPY)

'22年度実績	141.38
'23年度実績	157.09
'24年度1Q実績	166.87
'24年度2-4Q前提	150.00

(ご参考) ROIC算出式

税後ROIC = {親会社の所有者に帰属する当期利益 + 支払利息 × (1 - 実効税率)} ÷ 投下資本※3

※3 投下資本 = 期首・期末平均のNET有利子負債 + 期首・期末平均の自己資本

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する
“Global Kawasaki”